

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 生徒の持てる力や可能性を最大限伸ばす「生徒が主役の学校」をめざす。
- 1 地域やグローバルな世界で「生き抜く力」の基となる確かな学力を育む。
 - 2 安全で安心な学習環境のもと、お互いを尊重し、自尊感情を育む。
 - 3 将来の生き方をデザインし、自ら学び続けることができる生徒を育む。
 - 4 自ら学び続ける教師集団を育む。

2 中期的目標

- 1 「生き抜く力」の基となる確かな学力を育む。
 - (1) 「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」生徒のやる気を引き出す。
 - ア ICT活用と言語活動をキーワードに、「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」で、生徒のやる気を引き出す。
※ 教員の「ICTを使って授業を展開している」(H27の75%をH30には80%にする)
 - イ 少人数展開授業をはじめ、各授業や講習、補習の充実を図り、基礎基本の定着に努める。
※ 生徒の「内容がわかりやすい授業が多い」(H27の59%をH30には64%にする)
 - (2) 生徒の「多様な学び」を保障する。
 - ア 生徒の多様な学びの要望に応えるカリキュラムや課外プログラムの提供に努める。
 - イ 生き抜いていく基となる資格取得を進める。
 - ウ あらゆる科目において、「考える」「発表する」参加体験型のアクティブラーニングを研究する。
※ 生徒の「学校の評価は、テストの点だけでなく、生徒の努力や授業に取り組む姿勢等を含めて行われている」(H27の70%をH30には75%にする)
- 2 安全で安心な学習環境の維持と自尊感情の育成。
 - (1) 安全安心で「生徒が主役」の学校生活。
 - ア 生徒をより深く理解するために、「高校生活支援カード」「個人面談週間(4月・6月・11月)」等を活用する。
また、「学年会議」等で、生徒情報を共有化し、中退やいじめの防止に努める。
※ 生徒の「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」(H27の55%をH30には60%にする)
 - ※ 保護者の「学校は親身になって相談に応じてくれる」(H27の56%をH30には60%にする)
 - イ 部活動を通して多くの生徒に成功体験を積ませる。
※ 生徒の「学校は部活動が活発になるよう取り組んでいる」(H27の51%をH30には56%にする)
 - (2) 多様な体験活動の提供と達成感で自尊感情と規範意識を高める。
 - ア 校外での活動で生徒が活躍できる場を提供する。
 - イ 基本的な生活習慣の確立。
※ 生徒の「普段から遅刻しないよう心掛ける」(H27の78%をH30には83%にする)
 - ウ 生徒が学校行事を自主的に企画・運営することで達成感を味あわせる。
 - エ 地域社会や学校の一員としての自覚と責任感を持ち、愛校心及び他者を思いやる心を養う。
 - (3) 学校施設等の諸条件の整備と防災教育。
 - ア 学校施設等の諸条件の整備。
 - イ 防災教育や危機管理体制を再構築する。
- 3 将来の生き方をデザインし、自ら学び続けることができる生徒を育む。
 - (1) キャリア教育プランの実行。
 - ア 3年間のキャリア教育プランに基づき、1年次から進路意識の高揚を図り、生徒個々が将来の生き方をデザインする。
※ 生徒の「将来の進路や生き方について考える機会がある」(H27の57%をH30には62%にする)
 - イ 1年次より外に出かけ、進路を意識する機会を提供する。
 - ウ 「学力向上のためのプロジェクトチーム」の取組みを通して、将来を見据えて継続的に頑張ることができる生徒を育てる。
 - エ あらゆる教育活動を活用し、生徒や保護者へのきめ細やかな情報の提供を行う。
※ 生徒の「先生は進路についての情報を良く知らせてくれる」(H27の61%をH30には66%にする)
 - オ 進路未決定者を減少させる。(H27の13%をH30には10%にする)
 - (2) アセスメントの活用。
 - ア 基礎教養の定着度や「個々の強み」を知るために、アセスメントを活用し、一人ひとりが持てる力を伸ばし、進路実現を図る。
※ 生徒の「自分の学力の向上を実感している」(H27の48%をH30には53%にする)
 - (3) 入学前から生き方プランを考える機会を提供する。
 - ア 本校で頑張りたいと思う生徒が入学できるように広報活動を行う。
 - イ 「スポーツフェスティバル in イズトリ」の継続実施により、様々な活躍の場があることを示す。
- 4 自ら学び続ける教師集団を育む。
 - (1) 授業改善のための学び合い。
 - ア 外部の力を活用した研修を行い、自ら学び続ける教師集団を育む。
※ 教員の「研究授業を定期的実施している」(H27の35%をH30には40%とする)
 - イ 外部の研修に参加しやすい職場環境を保持し、研修で得た情報や知識を校内研修で共有し還元する。
 - ウ 授業観察及び相互の意見交換を行うことで自ら授業改善に取り組む。

府立泉鳥取高等学校

| |
|--|
| <p>※ 生徒の「他の先生が授業を見学に来ることがある」(H27の70%をH30には75%とする)</p> <p>(2) 教員が本校生徒、学校の実情を知る。</p> <p>ア 情報交換の場を設けることで交流を促す。</p> <p>※ 教員の「経験の少ない教員と経験豊かな教員の交流を定期的実施」(H27の60%をH30には65%とする)</p> <p>イ ミドルリーダーの自覚を促し、学校の活性化に向けての取組みを立案させる。</p> <p>※ 教員の「学校教育計画の重点目標に照らして目標を設定し教育活動を行う」(H27の64%をH30には69%とする)</p> |
|--|

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析[平成27年12月実施] | 学校協議会からの意見 |
|--|--|
| <p>学校経営計画が、どのように取り組んでいるかが分かるよう各質問項目を選び、経年変化を考察する。(生：生徒 教：教員 保：保護者) あてはまる%</p> <p>1 確かな学力 ○わかりやすい授業を拡充・展開する 28年 (27年)</p> <p>生「内容がわかりやすい授業が多い」 66% (59%)</p> <p>教「授業において、生徒が理解できている手ごたえがある」 43% (54%)</p> <p>保「内容がわかりやすい授業が多いようだ」 45% (50%)</p> <p>昨年同様、授業は少人数、ICTの活用、参加体験型を多く取入れ、意欲がわくように工夫している。生徒の回答は増加しているが、教員の手ごたえや保護者への周知が不足しているように思われる。</p> <p>2 安全安心な学校 ○生徒に寄り添う生活指導 28年 (27年)</p> <p>生「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」 61% (55%)</p> <p>教「教職員は生徒の意見をよく聞いている」 68% (79%)</p> <p>保「学校は、親身になって相談に応じてくれる」 54% (56%)</p> <p>今年度も懇談会や「支援カード」等を活用しながら昨年通りの対応とした。4年間連続してほぼ同率であった生徒の回答が増加した。しかし、教員の回答が大きく減少した。教員は、今以上の丁寧な指導を心掛ける必要がある。</p> <p>3 将来の生き方デザイン ○1年からの系統的なキャリア教育 28年 (27年)</p> <p>生「1年の頃から進路に関心を持てる授業が行われている」 56% (48%)</p> <p>教「学校は1年からキャリア教育の目標を設定し、実践している」 50% (64%)</p> <p>保「懇談等で1年時から進路に関して具体的に先生と話をしている」 53% (50%)</p> <p>1年からのキャリア教育については、教員間での情報共有を心掛けるとともに丁寧に行っており、生徒の回答は大きく増加した。1~3の項目は、生徒については全て増加したが、教員については全て減少している。生徒がポイントを増加させている事実を踏まえて、今後の改善を図りたい。</p> <p>4 教員の育成(資質向上) ○校内教員研修の充実 28年 (27年)</p> <p>生「他の先生が授業を見学にくることがある」 73% (70%)</p> <p>教「研究授業を定期的実施している」 16% (35%)</p> <p>保「学校は、保護者が授業を参観する機会をよく設けている」 62% (57%)</p> <p>教員は授業力の向上をめざして、お互いに授業を見る機会が増えている。また、教員間の意見交換や交流も活発になってきている。このことは生徒も感じていると思う。今年度、各分掌等で自発的に研修会を実施するなど、多方面での研修会の開催が有効に働いたと考える。今後も本校の研修を大切に教員の資質向上を図りたい。</p> | <p>第1回(6/24)</p> <p>1 本校の概要</p> <p>2 学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力をつけ、規範意識を高めるとともに昨年以上に進学、就職者を増やし、進路未決定者を減少させる。 <p>3 協議会委員からの意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路指導室の場所の移転は、生徒の意識向上にも効果がある。 生徒の様子が、年々よくなってきている。ボランティア等による地域への貢献度も高く、多様な教育実践ができています。 生徒がよくなってきていることや先生の努力が保護者に伝わっていない。 <p>第2回(11/4)</p> <p>1 近況説明</p> <p>2 部活動見学・分掌等の報告</p> <ul style="list-style-type: none"> クラブを見学し顧問や部員から説明を受ける。(概要・実技や演奏)(バスケットボール、ダンス、茶道、軽音楽、吹奏楽) 進学は指定校推薦が中心。就職一次内定率も70%以上と好調である。 <p>3 協議会委員からの意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校がきれいである。生徒にとって過ごしやすい環境は大切である。 ダンスや演奏を依頼するとすぐに応じてくれるなど、自主性やコミュニケーション能力がある。クラブの更なる活発化を期待する。 教師の教育力が大切。先生方の努力は何事にもかえがたいと感じた。 <p>第3回(2/10)</p> <p>1 本年度の進路等の状況報告</p> <p>2 平成28年度授業アンケート結果及び学校教育自己診断の分析について平成28・29年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> 本年度の進路状況や生活指導の状況などを説明する。 <p>3 協議会委員からの意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の全国大会出展を祝う懸垂幕等、学校が活性化している。 進路や生活指導の状況を伺うと、学校は良好で頑張りは評価できる。 生徒のため口や教員の言葉遣いは中学校でも課題であり、丁寧な言葉遣いや対応は、生徒に好影響を与えるので心掛けてほしい。また今後は、教育相談も課題であり、発達障がいをしっかり捉えての指導が必要。 日本の部活動は、規律やけじめなど生徒が学ぶべきことが多いので、海外のメディアでも取り上げられている。部活動の魅力をもっとPRしてほしい。 |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|------------------------|---|--|---|--|
| 1 「生き抜く力」の基となる確かな学力を育む | <p>(1) 「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」生徒のやる気を引き出す。</p> <p>(2) 生徒の「多様な学び」を保障する。</p> | <p>(1)ア 「学校経営推進費」事業等を活用し「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」を味わえる新しい授業法や本校に適した授業方法を学力向上PT等において研究する。</p> <p>イ 各授業や講習、補習の充実を図りながら、基礎基本の定着に努める。</p> <p>(2)ア 総合的な学習の時間が進路指導に結びつくよう基礎学力、教養を身に付けさせる。</p> <p>イ 担任、学年団及びPTA等の協力を仰ぎながら英検等の資格試験を推奨する。</p> <p>ウ 授業規律を大切に「考える」「発表する」参加体験型のアクティブラーニングを踏まえて教え方を研究する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断 (1)-ア 教員の「ICTを使って授業を展開している」78%以上(H27 75%) (1)-イ 生徒の「内容がわかりやすい授業が多い」62%以上(H27 59%) (2)-ア 生徒の「総合学習は進路に結びついている」57%以上(H27 54%) (2)-イ 英検の受検者数を4名増加(H27 21名) (2)-ウ 生徒の「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」69%以上(H27 66%) | <p>(1)-ア 「学校経営推進費」事業への申請は不採用となる。昨年度の75%から66%と減少し、目標を達成できなかった。(△)</p> <p>(1)-イ 基礎基本の定着に努め生徒の診断は、59%から66%に増加した。(◎)</p> <p>(2)-ア 総合学習を順調に進め54%から59%に増加した。(○)</p> <p>(2)-イ 積極的に勧め、受験者は31名、10名増加となった。(◎)</p> <p>(2)-ウ 69%に増加した。授業規律を大切にしている。(○)</p> |

府立泉鳥取高等学校

| | | | | |
|---|--|---|---|--|
| <p>2 安全で安心な学習環境と自尊感情の育成</p> | <p>(1) 安全安心で「生徒が主役」の学校生活。</p> <p>(2) 多様な体験活動の提供と達成感で自尊感情と規範意識を高める。</p> <p>(3) 学校施設等の諸条件の整備と防災教育。</p> | <p>(1) ア 新入生に「高校生活支援カード」を「個人面談週間」等で活用しながら保護者との連携を密にし、生徒の理解を深める。</p> <p>イ 新入生に「部活動体験」を工夫する等、部活動加入率の向上を図る。</p> <p>(2) ア 年間を通してボランティア等への積極的な参加を推進する。</p> <p>イ 生徒への声掛けを励行するとともに遅刻防止等の指導方法を検討し、規範意識を高めることにより遅刻者数を減らす。</p> <p>ウ 学校行事で生徒が前面に立った運営を行う。</p> <p>エ 「乗車マナーキャンペーン」「地域清掃」「農園活動」等の継続実施で地域とのつながりを密にする。</p> <p>(3) ア 基本的な施設の点検、改修等を継続する。また、進路指導室の充実を図る。</p> <p>イ 災害等に備える知識と対応する力を生徒が身に付けるための防災教育に取り組む。</p> | <p>・学校教育自己診断</p> <p>(1) -ア 生徒の「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」60%以上 (H27 55%)、保護者の「学校は親身になって相談に応じてくれる」60%以上 (H27 56%)</p> <p>(1) -イ 部活動加入率の3%増加 (H27 33%) 生徒の「学校は部活動が活発になるよう取り組んでいる」54%以上 (H27 51%)</p> <p>(2) -ア ボランティア活動等に70人以上の生徒が参加 (H27 63名)</p> <p>(2) -イ 生徒の「普段から遅刻しないよう心掛ける」81%以上 (H27 78%)、遅刻者数の10%減少 (H27.12 9,008名)</p> <p>(2) -ウ 行事運営に100人以上の生徒が関与 (スポーツフェスティバルで50名)</p> <p>(2) -エ 各種事業を継続実施 (H27 12事業)</p> <p>(3) -ア 施設の未改修箇所を減少させるとともに迅速な対応を行う。また、計画的な整備を行う。</p> <p>(3) -イ 防災について学習する機会を年1回提供する。</p> | <p>(1) -ア 「支援カード」を懇談時に活用するなど生徒に寄り添った対応を心掛けた。生徒は56%から61%、保護者は56%から54%となった。(○)</p> <p>(1) -イ 新入生に複数の部活動体験をさせる等、工夫したが33%から24%に減少。生徒の取り組みも51%から50%となった。(△)</p> <p>(2) -ア ボランティア授業だけで62名と生徒会等が参加した。(○)</p> <p>(2) -イ 生徒は82%と意識が向上するとともに遅刻者7,960名と12%減少した。(◎)</p> <p>(2) -ウ 学校説明会等では100名以上、スポーツフェスティバルでは32名が運営に参加した。(○)</p> <p>(2) -エ 現在、12事業以上の継続をした。(○)</p> <p>(3) -ア 進路指導室の移転・拡充はじめ災害等に備え防災設備を整備した。(◎)</p> <p>(3) -イ 防災訓練を2回行った。(○)</p> |
| <p>3 将来の生き方をデザインし、自ら学び続けることができる生徒を育む</p> | <p>(1) キャリア教育プランの実行。</p> <p>(2) アセスメントの活用。</p> <p>(3) 入学前から生き方プランを考える機会を提供する。</p> | <p>(1) ア 1年次より系統立てて、生徒個々が将来の生き方を考える機会を与える。</p> <p>イ 大学等オープンキャンパス、インターンシップ、職場体験、看護体験等への参加を促す。</p> <p>ウ 「学力向上のためのプロジェクトチーム」の討議等を踏まえ、進路意識の高い生徒の学習の場を保障するため進学者向け講習会や合宿等を検討する。</p> <p>エ 「進路だより」等を継続して、生徒や保護者への情報の提供を行う。</p> <p>オ 粘り強い指導を続け進路未決定者を減少させる。</p> <p>(2) ア アセスメントの結果を個人面談や進路ホームルーム等で用いることにより、生徒は自分の基礎教養の定着度や「個々の弱み、強み」を知る。</p> <p>(3) ア 将来の生き方をデザインし、本校で頑張りたい、と思う生徒が入学できるように広報活動の諸条件を整備する。</p> <p>イ 「スポーツフェスティバル in イズトリ」実行委員会で本校に合致した内容を検討し充実を図る。</p> | <p>(1) -ア 生徒の「将来の進路や生き方について考える機会がある」60%以上 (H27 57%)</p> <p>(1) -イ 大学等オープンキャンパス、インターンシップ等への参加者の10%増加 (H27 54名)</p> <p>(1) -ウ 進学希望者への対応。また、大学、短大進学者数の10%増加 (H28 34名)</p> <p>(1) -エ 生徒の「先生は進路についての情報を良く知らせてくれる」64%以上 (H27 61%)</p> <p>(1) -オ 進路未決定者率の2%減少 (H28 12%)</p> <p>(2) -ア 個人面談は年3回、進路ホームルームでは年1回、結果を活用する。</p> <p>(3) -ア オープンスクール参加中学生数の3%増加 (H27 178名)</p> <p>(3) -イ スポーツフェスティバルの参加中学生数の3%増加 (H27 353名)</p> | <p>(1) -ア 3年間を見通したキャリア教育のベースができ、65%と増加した。(○)</p> <p>(1) -イ オープンキャンパスで100名を超え、インターンシップ等で38名が参加した。(○)</p> <p>(1) -ウ 47名と大幅に増加した。(○)</p> <p>(1) -エ 進路便りも継続して提供し68%に増加した。(○)</p> <p>(1) -オ ハローワークや就職の応募前職場見学等の指導により就職106名が内定、進学は114名。(◎)</p> <p>(2) -ア 模擬面接や進路ホームルームを充実させることができたが、結果の活用までには至らなかった。(△)</p> <p>(3) -ア 学校案内を新しく作成するなど広報に努めオープンスクール合計189名の参加で6%増加した。(◎)</p> <p>(3) -イ 内容を改良するとともに、4競技で延べ中学校28校、中学生446名が参加した。(◎)</p> |

府立泉鳥取高等学校

| | | | | |
|-----------------------------|---|---|--|--|
| <p>4 自ら学び続ける教師集団を育む</p> | <p>(1) 授業改善のための学び合い。</p> <p>(2) 教員が本校生徒、学校の実情を知る。</p> | <p>(1) ア 年3回以上の研修会を開催する。</p> <p>イ 近隣の学校、教員等とも連携をとり、得た情報や知識を報告する機会を設けその成果を共有する。</p> <p>ウ 授業見学の機会を増やすことにより、自己の授業改善に活かす。</p> <p>(2) ア 経験の少ない教員と経験豊かな教員との情報交換をする場を定期的に設ける。</p> <p>イ 「学力向上のためのプロジェクトチーム」の提言を取り入れていく。</p> | <p>(1) -ア 教員の「研究授業を定期的実施している」38%以上 (H27 35%)</p> <p>(1) -イ 学期ごとに1名以上が報告</p> <p>(1) -ウ 生徒の「他の先生が授業を見学に来ることがある」73%以上 (H27 70%)</p> <p>(2) -ア 教員の「経験の少ない教員と経験豊かな教員の交流を定期的実施」63%以上 (H27 60%)</p> <p>(2) -イ 教員の「学校教育計画の重点目標に照らして目標を設定し教育活動を行う」67%以上 (H27 64%)</p> | <p>(1) -ア 進路・生指・教育相談等が主催し研修会を12回以上開催した。研究授業は16%に減少した。(○)</p> <p>(1) -イ 近隣の学校と連携し、研修会等でも情報を共有している。(○)</p> <p>(1) -ウ 本校の教員はじめ府教育センターや他校からも視察があり73%となった。(○)</p> <p>(2) -ア 業務多忙等により定期的な情報交換の場は48%と減少した。(△)</p> <p>(2) -イ 平成26年度の54%と同程度の55%に減少した。(△)</p> |
|-----------------------------|---|---|--|--|